

上京

史蹟と文化

2008 VOL. **35**



美を語る

一条戻橋

絶え間なく車の行き交う堀川通は、平安京の堀川小路から幾たびもの変遷を経て、今日の姿になりましたが、特に激しく変わったのは、やはり明治時代以降でしょう。路面電車の開通、第二次世界大戦中の道路拡張工事など、文明開化とその結果のもたらした変化でした。通称「堀川電車」あるいは「ちんちん電車」は、堀川の東岸を堀川に沿って、北は中立売から北野天神まで、南は四條西洞院から三哲まで、とことこと走っていました。黒いダブルの外套を着た運転士が、吹きさらしの運転台に立つて運転している様子を、子供の頃は寒そうだななどと思いつつ眺めていたものです。また、道路の拡張は、戦争末期に激しさを増した空襲から街の延焼を防ぐベルト地帯を、火急につくらねばならぬ必要から、強制的に行われました。五条通も、御池通も、その時町が毀され拡張され、家屋の取り壊しには、当時の中学生や、専門学校生らが、動員されました。結局、京都の街は戦災を免れました。戦後の食糧難の時代、近辺の人々はその間に野菜を作ったと言います。その後、車社会を迎えて、これらの大道が主要幹線道路となったのは、周知の通りです。その陰で消えてしまったものも多く、例えば竹内栖鳳の生家なども、どこやらわからなくなっていました。

さてこの広々した堀川通には、昔も今もあまり変わらず、幾本かの細い小路が、それぞれ短い橋を堀川に渡して、東西に走っています。丸太町通から今出川通の間では、東へ進るといずれの道も、烏丸通で京都御所に行き当たりです。一条通もその一つ。古代平安京の時代には、大内裏の外周を成す道路で、今日より役割は重要だったでしょう。そこに架かる橋が一条戻橋です。現在川はコン



美術史家

加藤 類子

クリートで暗渠化されてしまい、石垣にイタドリが青々と繁り青大将が這っていたような、比較的最近まで残っていた風情は失われてしまいました。橋も、露わに日に照らされて、ふと見落としてしまいそうになります。ですがここは、歴史的には古い場所で、平安京の一条大路と、今もほぼ一致するといえます。郊外への出入口ともいふべきところで、陰陽師による橋占が行われた場所でもありました。安倍清明が十二神将の人形を橋の袂に埋め、橋占の時には掘り出して吉凶を占ったといいますが、近年発見された北野天満宮の一群の木造鬼神像や、大將軍八神社に祀られる大將軍像などを実際に見ますと、間に満ちていた古代の京の都や人々の怖れが、如実に伝わってきて、この種の占いや怨霊鎮めの現実感がいや増しに増します。

しかし何よりも、一条戻橋の名を民間に残したのは、源頼光の家来渡辺綱と鬼女の伝説でしょう。この伝説の初出かと思われるのは、『平家物語』第十二巻、その巻外篇ともいふべきもので、「屋代本」でのみ語られる源氏に伝わる剣の話です。

物語は、ある夜渡辺綱が戻橋辺りで、みめよき若い女に会い、請われてこの女を馬の後ろに乗せたことから始まります。しば



柴田 是真 茨木童子図額 東京・王子稲荷社蔵



近藤 浩一路 一条辰橋 1925年

らく往くと女は、「愛宕山へ行け」と命じ、綱の髻をむんずと掴みます。「すわ、ばけもの」と、綱は少しも慌てず刀を抜いて斬りつけますと、鬼女の片腕は綱の髻を挿んだまま、北野天神の回廊まで飛びました。顛末を聞いた陰陽師の安倍晴明は、綱に誦経と七日間の謹慎を命じますが、その六日目に、綱の養母に化けた鬼女が綱の館を訪れ、言葉巧みにかき口説いて綱をあざむき、ついに片腕を取り戻して遁走します。この物語は後世、『太平記』、室町時代の『御伽草子』、観世小次郎による能『羅生門』、さらに、江戸時代には三世団十郎の演じる『兵四阿屋造』、杵屋浄海の『綱館』、明治に入つては、河竹黙阿弥の舞踊『茨木』と、脚色を加えつつ引き継がれ、誰もが知る物語になりました。

さて、この一条辰橋の近くに、大正末から昭和初期にかけて、一人の画家が住みました。水墨画家として知られた近藤浩一路です。近藤浩一路は山梨県出身で、

東京美術学校（現・東京芸術大学）の西洋画科を卒業しました。同級生には藤田嗣治、岡本一平、池辺釣らがいて、はじめは油絵を画いて文展（文部省美術展覧会）に出品していましたが、岡本一平らとの交友を通して、新聞の挿絵や漫画も手がけました。その後、日本美術院（院展）に所属して、主に水墨による作品を描きます。それらは、伝統的な手法と形式を用いた従来の水墨画でもなく、文人画のような主観的な

表現でもない、光と影の交又する独特の表現のものです。斬新な印象が人々に注目されました。西洋近代の絵画表現をいっばいに吸い込んだ世界ですが、のちにはアンドレ・マルローらの称賛も受けました。近藤は、大正十二年、関東大震災の混乱を逃れて京都へ移ってきました。大正三年（一九一四）に結婚した夫人が京都の人であったことも、移転の理由の一つでしょう。居を定めたのが、上京区大宮通一条上ル。辰橋は散歩の距離です。近藤は早速、自宅を「墨心舎」と名付けて画塾を開き、一方、再興日本美術院展（第十回）に、後に近藤の代表作の一つとされる「鵜飼六題」の大作を出品しました。そして、翌年には、第十一回再興院展に「京洛十題」を、さらにその翌年の第十二回再興院展には、「長岡天神」「淀芋洗村」「三条大橋」「花見小路」「小町寺道」そして、「一条辰橋」を出品しました。この頃には、京都でも画友が増え、同じく震災で疎開してきた岸田劉生や、京都の油彩画家で、文人画家でもあった津田青楓らと「三条会」を結成して、市内で展覧会を開催するなど、画家として充実した日々を過ごしました。

作品「一条辰橋」は、青味を帯びた墨を用い、ややコントラストの強い調子で堀川通の下手から橋と光りつつ流れる堀川を描いています。遠景の家の壁と岸辺の柳のあたりに光が射し、川沿いの杭や歩く人は斜めから射す光に、長い影を曳いています。辰橋の伝説の、夜の情景も先入観となつて、この作品は夜景と思ってきました。今なら迷わず、この明るさを街灯の光と解せますが、時代（大正十四年）から推して、あり得ないことのように思われるのですが。

近藤は、昭和六年の二度目のパリ遊学も含めて、昭和十一年まで、約十三年を京都で過ごしました。その間、京都だけではなく、奈良や岐阜、奥州にまで足を延ばし、多くの珠玉の水墨作品を描きました。京都への想いは晩年まで衰えることがなく、七十三歳の昭和三十三年には墨（細雨）の銀閣、白（雪）の金閣を描いています。昭和十年、第二十二回院展に出した「御水取八題」は最高の傑作と言われましたが、残念にも焼失してしまいました。

ちなみに、一条辰橋を描いたもう一つの作品を紹介しておきましょう。それは幕末・明治の画家で、著名な漆芸家でもあった柴田是真の描いた「茨木童子図額」です。幕末の世紀末的表現を想わせる名高い作品です。

大 小路

おおし
こじ

武者小路通
元誓願寺通
笹屋町通

上京の史蹟 その17

武者小路通

nushanokoji street

一条通と今出川通の間には、どこからか現れ、いつの間にか消えてしまうような道路が何本かあります。武者小路通もその一つで、三丁ほどの短い道です。



もともとこの辺りは一条大路が平安京の北端ですから京外になります。一丁毎の南北の大路や小路は一条大路止まりでしたが、やがて京外の北へと伸びて行きます。それらの縦通を横につなぐように辻子(図子)が発生します。これは京中のように格子



状につながるののでなく、一丁の間を適当につないでいたのでした。今も上京区内の一条通より北一帯の道路が、あみだくじのような迷路になっているのは、そのためなのです。

武者小路通は、そのような辻子の連なったものと考えられます。烏丸から室町までが梅屋町、室町から新町までが武者小路町、新町から小川までが西無

車小路町と少しずつ南へずれながら連なっています。おそらく武者小路という辻子から通り名



官休庵・武者小路千家

になったと思われる。武者小路新町の角が広場のようになっているのは昭和二十年、終戦直前の強制疎開によって新町通の

武者小路より北が東側を、南が西側を削られたあと、雁木（雁の行列のように道路が喰い違っていること）になっていた新町通を一本の道路に広げたためなのです。

武者小路通という茶道三家の一つ、武者小路千家が思い浮かぶことと思います。三千家は侘び茶の大成者とされる千利休（一五二二―一五九一）の道

統を受けついで茶道家元です。利休が仕えていた豊臣秀吉の怒りに触れて切腹させられたあと、養子の少庵が茶統を継ぎ許されて千家を再興しました。その子宗旦には四子がいいて小川寺之内に住みます。まず不審菴が三男宗左に譲られ、宗旦は屋敷の北側に建てた今日庵に隠居。その後四男宗室に今日庵を譲り、不審菴を表千家、今日庵



中村宗哲家住宅

を裏千家と称するようになりました。次男宗守は武者小路通側に官休庵を住まいとして武者小路千家を起し、三千家が成立したのです。官休庵の名は四国高松藩に仕官していた宗守が官を辞して茶室を建てたので官を休むところから名乗ったといわれています。ところで武者小路千家は、庭園が京都市の指定名勝、建造物

が国の登録有形文化財となっています。残念ながら、寛文七年（一六六七）に官休庵を創立してから三度の火災に遭遇していますが、代々の宗守家元により再建が繰り返され、明治十四年（一八八一）に現状の茶屋敷が復元されたようです。

もとより庭園は、そこに存在する建造物とともにあるものだと思います。特に内露地と外露地の境にある編笠門がこの庭の見所となっています。主屋は二階建、棧瓦葺の数寄屋風の住宅で、半宝庵、環翠園、行舟亭からなります。初代好みの官休庵は大正十五年（一九二六）に再建、九代愈好齋好みで昭和十五年（一九四〇）に再建された弘道庵に加えて、近年になっても茶屋建築の整備がすすめられています。

その東側に中村宗哲家の住宅が国の登録有形文化財となっ

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社 京都市中京区烏丸通三条下る ☎075(221)-4000
フリーダイヤル ☎0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀式場 ◆

公益社北ブライツホール(堀川黎明)	京都市北区黎明通堀川東入	☎ 075(414)0420
公益社中央ブライツホール(五条大和路)	京都市東山区五条通大和路	☎ 075(551)5555
公益社南ブライツホール(堀川八条)	京都市南区堀川通八条下る西側	☎ 075(662)0042
公益社西ブライツホール(五条西大路)	京都市右京区五条通西大路西入南側	☎ 075(322)0042
公益社宇治ブライツホール(宇治横島)	宇治市横島町(文教大学前)	☎ 0774(20)0042
公益社滋賀ブライツホール(大津)	大津市朝日が丘1丁目	☎ 075(523)0042

ています。ここは三千家が指定している茶道具の職方十家からなる千家十職の一家で、江戸時代前期より十三代にわたって、三千家の塗師（ぬし）を継承して来られました。先代の十二代宗哲（故中村弘子氏）は本誌第六号（平成六年三月）の「美を創る」に紹介されていますので、詳しくは述べませんが、武者小路千家との深い血縁によるものとされています。

中村家住宅は京都に残る工芸家の住宅兼工房としての価値が認められたのですが、今の建物は木造二階建の瓦葺、嘉永七年（一八五四）の建造です。この年は七月十九日に御所を警固していた会津・薩摩の藩兵隊と入京してきた長州藩兵の間に起きた禁門の変が起り、京都の町を焼き尽くした鉄砲焼け（どんどん焼・元治兵燹）による再建です。現在は十二代宗哲の息女が、それぞれの夫君とともに漆工、陶



元誓願寺橋



親水公園化の進む堀川

工、金工などを合わせた現代の工芸として先祖の技を受けつがれており、同じ建物で当代宗哲まで六代にわたって制作が続けられていること自体が、京都の伝統工芸の奥深さを感じさせられるものだと思います。

なお、本誌第十八号（平成十二年二月）に掲載した宮本隼史氏（としか）も「ふさ・ひも師」としてこの通りに住み、工房を構えておられます。

元誓願寺通

motosegani street

元は今小路といいましたが、名前の示すとおり、かつて誓願寺のあったところです。誓願寺は中世に今のみつば幼稚園（小川小学校旧地）のあたりに深草から移り、天正十三年（一五八五）に豊臣秀吉によって今の新京極



元誓願寺通の町家

六角に寺地を替えられました。その当時は、かなり大きな寺院であったようです。

堀川は元誓願寺橋の北までが暗渠で、ここから親水公園化

イメージ写真

歓送迎会・親睦会に最適な
パーティープラン

紅梅 KOUBAI PLAN **¥8,500**
こうばいプラン (お1人様料金/税・サ込)

お料理: 洋食/和食/和洋折衷料理
お飲物: ビール、ワインなど9種類の中からお好みで6種類

※お料理はご選択ください。※ご利用は2時間30分です。
※当日宿泊ご優待など各種特典をご用意しております。
※この他にも¥11,000/¥7,500のプランがございます。

宴会予約係 TEL:075-223-8484

京都ロイヤルホテル & スパ
地下鉄京都市役所前駅から徒歩で約1分

「源氏物語千年紀」

によせて



冷泉 貴実子

今年は源氏物語が文献上にその存在を現わしてから、千年目になるといふ。私は「源氏物語千年紀」

の呼びかけ人の一人であるが、呼びかけ人になるようにという話があった時は、果してそれが衆目を集める催しになるかどうか、とて心もとなかった。

しかし今のこの盛り上がり方はどうであろうか。改めて源氏物語の人気に驚いている。作者は紫式部という女性であり、主人公は絶世の美男子、光源氏。それを皆が知っているということだけでも、国民の教養は高いのかもしれない。千年前に紫式部が自ら筆をとって書いた原本はどこにあるかという、一枚も一行も今に伝わっていない。では現在本屋に並んでい、あるいは図書館で誰もが手に

取ることが出来る源氏物語は何なのだろうか。それは写本が伝えたものなのである。

冷泉家の先祖に、平安から鎌倉時代にかけて活躍した藤原俊成がある。俊成は和歌詠みとして有名で、当時の歌壇の指導的立場の人であった。

鎌倉時代の建久五年(一一九四)頃、左大将藤原良経が主催した「六百番歌合」というものが知られる。これは十二名の歌人が、良

経から出された百の十二人共通の題について和歌を詠み、全部で千二百首を右方と左方の二つに分け、つまり六百組で、一組ずつの優劣を勝負したものである。

審判官を判者という。その判者をつとめたのが俊成で、その判詞が今に伝えられている。

判詞の中に「紫式部、歌よみのほどよりも物書く筆は殊勝のうへ、花宴の巻は殊に艶なるものなり。源氏見ざ



紫式部像 (冷泉家時雨亭文庫蔵)

菓 匠

本家 玉壽軒

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319・414-0319

-いつも新しい感動を-

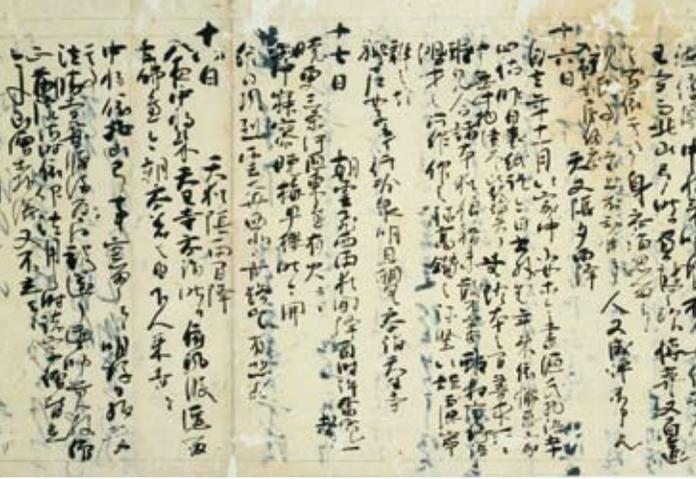
京都御所西、閑静な住宅街に溶け込むシックな外観。
さわやかな水のせせらぎが聞こえ、
やわらかな自然光がふりそそぐアトリウムロビー。
7つの多彩なレストラン&バーで、
ブライتن流のきめ細やかなサービスをお届けします。

《客室》183室
(レストラン&バー)

- 京懐石「壺(はたる)」●鉄板焼「焼(ひもろぎ)」
- フランス料理「ヴィ・ザ・ヴィ」●テラスレストラン「フェリエ」
- フレンチ「クー・オ・ミディ」●中国料理「花蘭(かかん)」
- メインバー「ムーンシャイナー」

京都ブライトンホテル

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)
TEL.075-441-4411(代) FAX.075-431-2360
ブライトンホテルズホームページ
<http://www.brightonhotels.co.jp/>



明月記（冷泉家時雨亭文庫蔵）`源氏物語を写したという語が見える。

る歌よみは遺恨の事なり」というのがある。つまり「紫式部は、和歌を詠むのはもうひとつだが、物語を書くのは秀れている。特に源氏物語の花宴の巻は、すばらしい。源氏物語を詠まない歌詠みなんて、残念である。」というような意味だろうか。

当時、俊成が歌壇の重鎮だったため、このことが重要視され、源氏物語が、殊に歌人の必須書になっていったといわれる。

俊成の子が定家である。定家は歌聖と呼ばれる程、歌人として名を残した人であるが、同時に古典の研究者としても有名である。コピー機はもち論、印刷術というものがなかった時代、本を詠むためには、まず人から借りそれを校訂し、写して手元に置いた。

源氏物語が成立してから、定家の時代まで約二百年が経過している。その時少くとも定家の元には原本は届かなかった。もうすでに原本は失われていたのだろうか。

定家は何種類かの写しを比べて、写し間違いを考えながら、写本をつくった。定家自身が写したことも多いが、定家の元で、近親者、家司等がその仕事に当たったことも知られる。一種の定家工房である。

定家工房で写された古典が、現在でも冷泉家に多く伝えられ、国宝や重要文化財の指定を受けている。

定家はまた、生涯にわたり「明月記」という日記をのこした。この

大部分も冷泉家に伝えられ国宝になっているが、そこに何度も源氏物語を写したという記事が見える。

現在私達は、容易に源氏物語を活字本で読むことができる。この流布している源氏物語の祖本のほとんどは、こうして定家が写したものである。

こう考えると、源氏物語を伝えた俊成、定家とその子孫の冷泉家の存在は、現代に大きな意味をもっているのである。

冷泉家

平安から鎌倉時代にかけての藤原俊成・定家の父子を祖とする藤原氏の家。
代々和歌を家業として宮廷に仕えた。明治維新後も東京に移らず、京都の地で俊成・定家以来の文化財を今に伝えた。昭和五十六年（一九八二）財団法人冷泉家時雨亭文庫を設立し、伝来の文化財の保存に努めている。

著者略歴

昭和四十八年（一九七三）

京都女子大学大学院修士課程修了（日本史専攻）

現在

財団法人 冷泉家時雨亭文庫常務理事

財団法人 冷泉家時雨亭文庫事務局長

第二十五代為人夫人

歌会、玉緒会、で冷泉流歌道を指導、各地でも和歌に関する講演などを行っている。

著書

「冷泉家の花貝合わせ」共著／文化出版局、一九八二、「新版」書肆フローラ・二〇〇七、

「京の八百年 冷泉家歌よみ」（京都新聞出版センター・二〇〇六）等

平成二十年七月現在

和料理
天ぷら

天 壽

京都市上京区千本通今出川上ル西側
電話 〇七五 461 四一四六番
四一四七番

新・古茶道美術品

清昌堂
やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル
〒602-0061 TEL (075) 431-1366
FAX (075) 431-1370

東京店・東京都新宿区市ヶ谷甲良町1-8
〒162-0856 TEL (03) 5261-4566
FAX (03) 3235-5677

上京の埋蔵文化財

―平成十九年度の平安宮跡発掘調査―

「国家の中枢、平安宮」

延暦十三年（七九四）、桓武天皇は、都を長岡京から山背国葛野郡に遷しました。古代都城の最後を飾る平安京の始まりです。その平安京の中でも、国家の中枢部といえるのが、平安宮です。

現在の上記区と中京区にまたがる平安宮は、船岡山から続く丘陵地上に位置し、洪水の心配のない最も土地が安定している場所に築かれ、東西約一・二km、南北一・四km、総面積約一六〇ヘクタールの広さがあります。平安宮内には、天皇の居住空間である内裏（現在の皇居）、役人が政務を行う諸官衙（霞ヶ関）や、国家の政治の中心である朝堂院（国会議事堂）、

天皇と貴族の宴会場である豊楽院などがありました。

このように、国家の中心としての役割を果たしていた平安宮ですが、律令体制の変化や、度重なる火災などが原因で、宮内の施設は衰退していきます。平安時代中期以降、天皇は、ほとんど内裏にはおらず、宮外の貴族の屋敷を御所とするようになります（内裏裏）。鎌倉時代になると、一部の建物を除いて荒地地となり、内野と呼ばれるようになりました。南北朝の動乱や、応仁の乱の際には戦場となっていました。また、豊臣秀吉による聚楽第も、平安宮跡に築かれています。現在では、宅地化が進み、平安宮の遺構は全て土の中に眠っています。

平成十九年、（財）京都市埋蔵文化財研究所が行った朝堂院跡と豊楽院跡の発掘調査で、平安宮の正確な復元を行うための、貴重な成果が確認されました（図1）。

「朝堂院の発掘調査（調査1）」

朝堂院は、平安京のメインストリート、朱雀大路の延長線上にあり、平安宮の中心に位置します。国家の正庁として、天皇が住む内裏に次いで建設が急がれ、正殿である大極殿は、延暦十四年（七九五）に、朝堂院全体は延暦十五年（七九六）に完成しました。その後、数度の火災で焼失するものの、再建されてきましたが、治承元年（一一七七）の火災で焼失し、廃絶しました。ちなみに、岡

崎にある平安神宮の拝殿は、大極殿を一回り縮小して復元したものです。

朝堂院は、東西約四七〇m、南北約一九〇mの広さがあり、大極殿、朝堂、朝集堂の三つの区画に分かれています。大極殿では、天皇即位の儀式や、外国使節の謁見などが行われました。朝堂は、左右対称に十二堂があり、身分や役所ごとに座るべき場所が厳格に決められ、政治が行われました。朝集堂では、朝堂に入る前の待機場所として使用されました。今回の発掘調査は、平成十九年

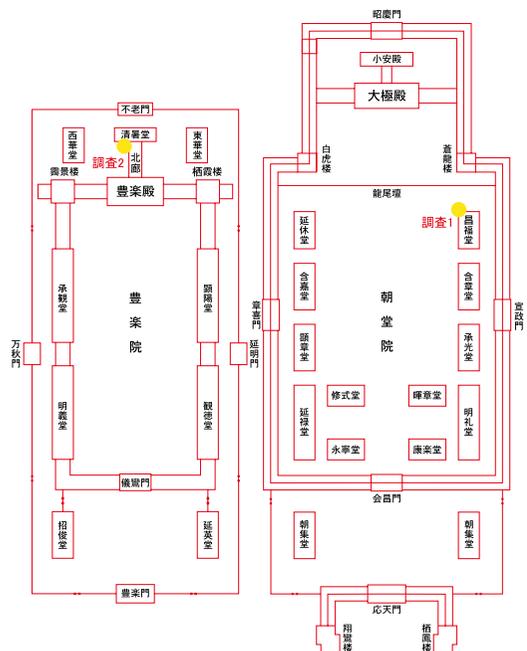


図1 朝堂院と豊楽院

六月に、上京区竹屋町通千本東入東主税町の民家の建て替え工事に伴い実施したもので、面積は約八〇㎡です。調査地は、朝堂十二堂の中で、東第一堂とも呼ばれる昌福堂跡にあたります。昌福堂は、平安時代の施行規則である『延喜式』には、太政大臣、左大臣、右大臣の座とされており、十二堂の中で最も格式の高い建物でした。

調査を進めていくと、平安時代の瓦がたくさん入った穴がいくつも見つかり、中には緑色の釉葉がかかった瓦がたくさん出土し、期待が膨らみましたが、同じ穴の中には、少量の江戸時代の焼き物が含まれています。どうも、江戸時代に周辺に散乱していた平安時代の瓦を、穴を掘って埋めたよう



図2 昌福堂北縁の基壇延石(西から)

す。また、壁土などに用いるために、聚楽土と呼ばれる黄褐色シルトの採取を目的とした穴もたくさん掘られていました。このように、江戸時代の遺構はたくさん見つかるものの、平安時代のものには瓦ばかりで、昌福堂に関わる遺構は見つかりません。ただ、調査区の北側では、小石の混じった非常に固い層が残っており、昌福堂の基壇の盛土の可能性も考えて掘ったのですが、土器も瓦も出土せず、答えが出ません。そして、調査最終日。全体の写真も撮り、下層の遺構の確認も終わり、図面等の記録もととり、翌日からの埋め戻しの段

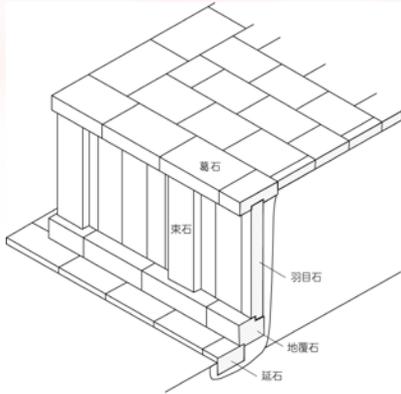


図3 壇上積基壇模式図

取りまで行いました。しかし、念のためと、北側のテントを張っている下に、幅一m、長さ二・五mのトレンチを設定し、掘削を始めました。すると、北端の道路際で、白い石が見えてきました。その石こそが、約八〇〇年ぶりに姿を現した昌福堂基壇北縁の凝灰岩だったのです(図2)。すぐに翌日からの埋め戻しを延期したことは云うまでもありません。

トレンチを東西にひろげたところ、凝灰岩の切石を四石分、東西約三mにわたって確認することができました。一石の長さは一〇〇cm、幅三四〜三八cm、厚さ一一〜二一cmあります。この凝灰岩列は、壇上積基壇を構成する最下部の延石にあたります(図3)。凝灰岩という石は、火山灰が堆積して固まったもので、見つけた凝灰岩は、奈良県と大阪府の県境ある二上山周辺で切り出されたものです。わざわざ遠く離れた二上山から運んできた、といたいといこ

ろなのですが、実は…。

延石は、いずれも厚さが違っており、上面を揃えるために、それぞれ地面を掘り込むもの(①)・石の下に土を入れて嵩上げするもの(②)・地面にそのまま置くもの(③)・が認められました(図4)。この厚みの違いこそが、昌福堂の延石のために切り出されたものではなく、別の場所で使用されていた凝灰岩をもって使用するという、今で言うリサイクル品であることを表しているのです。

また、延石の南側には、基壇の盛土が一部残っていることがわかり、先の調査区北側で確認した、小石の混じった固い層も、基壇の盛土であることがわかりました。今回、昌福堂の北端を確認できたことは、朝堂院の正確な復元を行う上で大きな成果になりました。これまで、大極殿と朝堂を区切る龍尾壇りゅうびだんの位置がはっきりとしませんでした。しかし、当時の指さし図ず(陽明文庫本『宮城図』)に、



図4 延石の据え方(右から①②③)

であることがわかり、朝堂十二堂が左右対称とされることから、西第一堂である延休堂の位置と規模も明らかになりました。

なお、見つかった昌福堂基壇の凝灰岩は、地権者のご理解によって現地保存されることとなり、現地には説明板が建てられています。

「豊楽院の発掘調査」

豊楽院は、朝楽院の西隣に位置し、歴代の都城の中では唯一平安宮にのみ設けられた施設(図1)で、九世紀初頭に完成しました。規模は、東西約一七〇m、南北約四〇〇mの広さがあります。ここでは、元旦に行われる宴会や、弓矢の腕比べなどの節会、現在でも皇室で行われている新嘗祭や、大嘗祭が行われるなど、まさに『西宮記』にあるように、天皇の饗宴の場として使用されていました。その後、儀式の整備に伴い、大嘗祭以外は、別の施設で行われるようになり、荒廃していきます。

藤原道長が豊楽院で肝試しを行ったという話や、道長が建立した法成寺に緑釉瓦を葺くために、豊楽殿の鴟尾を降ろさせたという話が残されています。結局、康平六(一一六三)年に火事で焼失した後、再建されることはありませんでした。

今回の発掘調査は、平成十九年9月に、中京区聚楽廻西町にある「史跡平安宮豊楽殿跡」のすぐ北側で遺構の確認を目的として実施したもので、面積は、約一八〇m²です。豊楽殿跡は、昭和六十二年に発掘調査が行われ、基壇盛土や、礎石の据え付け穴、基壇の凝灰岩などが見つかっています。

調査地は、清暑堂跡と豊楽殿北廊跡(以下北廊)にあたります。清暑堂は、豊楽院で宴会が行われる際に、天皇の控えの間として使用され、北廊は、清暑堂と豊楽殿とを繋ぐ渡り廊下でした。また、大嘗祭の際には、夜に天皇が清暑堂に赴き、高位の臣下ともに、神

楽を楽しむことが行われました(清暑堂神楽)。

調査を進めていくと、昌福堂跡の調査以上に土取穴が多数掘られており、壊されている所も多いものの、清暑堂と北廊の遺構を確認することができました。清暑堂では、基壇の盛土は固く締まった土で約三〇cm分を確認しました。南縁基壇の化粧である凝灰岩は全て抜き取られていましたが、抜き取る際に掘った溝を確認しています。南面西階段は延石と踏石(一段目)が見つかりました。延石の大きさは長さ九二cm以上、幅三三〜三七cm、厚さが一八〜二〇cmで合計五石確認できました。踏石は長さ九五cm、幅四〇cm、厚さ三二cmで一石しか残っていません。延石と踏石は組合わさった状態で見つかりました。階段の幅は約五・二m、張り出しは約一・五mです(図5・6)。

北廊では、基壇の盛土は良好に残っており、幅は最大で約一三m、

昌福堂北端と龍尾壇の間に七丈三尺(約二二・九m)との記載があり、龍尾壇の正確な位置が明らかになりました。また、昌福堂基壇の規模が、南北十丈九尺(約三三・七m)

厚さ約六〇cmあります。しかし、北廊の築かれた順序を調べるために断ち割りを入れたところ、北廊は一度に築かれたのではなく、2回にわたって拡張されていることがわかりました。豊楽殿の調査でも見つかった屋根から落ちる雨水を受ける磚敷きも見つかりました(図7)。



図5 清暑堂西階段の延石と踏石(西から)

清暑堂の南端が明らかになったことで、基壇幅は東西約三五mで、清暑堂と豊楽殿が三〇m離れていることがわかりました。階段の幅は、豊楽殿と同じ五・二mであることから、向かい合う豊楽殿を意識して階段幅を合わせたものと考えられます。また、壇上積基壇の建物は、取り付く階段の傾斜

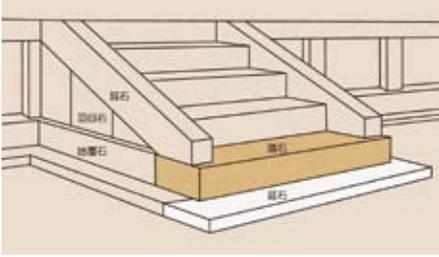


図6 階段模式図

が最大で四五度であるとされています。つまり、階段の張り出し部と基壇の高さがほぼ同じであるといえることから、基壇の最大高は一・五mであるといえるでしょう。調査地は、遺構の残存状況が良好であったため、平成二十年度に「史跡平安宮跡」に追加指定されました。

「おわりに」

平安宮跡の調査は、狭い面積の調査が多く、まさに点でしかありません。しかし、緻密な調査を積み重ねることで、わかってくるこ

とが少しずつ増えていきます。平安宮には、まだまだ謎がたくさん残されています。今後、(財)京都市埋蔵



図7 北廊と磚敷(西から)

文化財研究所では平安宮の解明に全力を注いでいきます。(西森 正晃)

不動産高価買取宣言！

不動産屋をお探しですか？

京都プラン株式会社
〒603-8303
京都市北区柴野十二坊町31番地
TEL 075-462-0017
URL <http://www.kyotoplan.jp>

売買・リフォーム・賃貸管理・不動産運用

歴史文字シリーズ

伝達浪漫

「ハゲタカの碑」一権力のしるしとして、手にして敵を屈服させると記されている。

和光印刷株式会社
〒602-0012 京都・烏丸通上御雲前上ル TEL.075-441-5408代
E-mail:info@wako-print.co.jp

みんなで花を咲かそう
活動

昨年秋から、区民ボランティアの皆さんの手によって、区役所玄関前を花で飾る取組を進めています。5月に植え付けた花々が現在、玄関前を色とりどりに美しく彩っています。



本年度は、春から一年を通じて花を咲かそうと、ボランティアの皆さんが水やりなど日々の手入を熱心に行われており、来庁者や道行く人々が潤いと安らぎを感じ、まちの美化や環境問題などにも思いを巡らせていただけたらうれしく思います。

園芸に興味があり継続して花の手入れをしていただける方は、ぜひこの活動に参加していただけないか。お問合せは、区役所まちづくり推進課まで(電話 441-5040)。

園芸講演会

「みんなで花を咲かそう」活動の一環として、3月12日に「園芸講演会」を区役所会議室で開催しました。講師にNPO 法人・京の園芸福祉研究会 副理事長の高林成年氏をお招きし、家庭での園芸のアドバイスや花や緑を活かした環境づくりなどについてお話いただき、参加者は熱心に聞き入っていました。



上京区 イベント

上京の歴史見学会

2月26日に「上京の歴史見学会」が開催されました。

まず、京菓子資料館で生菓子づくりの実演と展示室を見学した後、相国寺を訪れ、塔頭・大光明寺で住職から上京の歴史にまつわる貴重なお話を聞き、「相国寺の禅林文化展」を開催中の承天閣美術館を見学しました。

時折冷たい小雨の降る中、参加者は、上京の歴史や文化を身近に感じ、充実した早春のひと時を過ごしました。



憲法月間「映画のつどい」

五月の憲法月間の取組として、五月十五日に同志社大学寒梅館ハーディーホールにて、上京区民ふれあい事業実行委員会・上京区地域啓発推進協議会主催、同志社大学学生支援課共催による映画「手紙」(監督・生野慈朗 原作・東野圭吾)が上映されました。

この映画は、誤って人を殺してしまった兄と、そのことで苦しめられる弟の葛藤を描いており、会場には二部・二部あわせて約七七〇名の来場者が訪れ、感動に包まれた意義深い映画上映会となりました。

上京区文化振興会創立50周年記念

上京茶会

六月十五日、大本山妙顕寺に於いて恒例の「上京茶会」が開催されました。

表千家による懸釜で、お茶席は二席用意されました。孟宗竹林の坪庭を抜ける風も心地よく、「光琳曲水の庭」や「龍華飛翔の庭」を眺めながら、いただくお茶には、味わい深いものがありました。心配されていた空模様も安定し、来場者は途絶えることなく、心落ち着くひとときを堪能することができました。

宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

あじわい

¥5,000(税込)

ホテル

ルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161(代) FAX 075-432-6160
<http://www.rubino.gr.jp/>



レストラン
11:30~14:00
毎週日曜日はお得な
ランチバイキングを
しております
おひとり
¥1,200(税込)



名物ゆどうふ 南禅寺 **ゆどうふ**

JUNSEI
左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311
<http://www.to-fu.co.jp>

酢一筋の商い、伝統の滋味。

きょう 伝統から 未来へ

京・西陣 孝太郎の酢

(有)林孝太郎造酢

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455
TEL (075) 451-2071
FAX (075) 451-8028



「上京史蹟と文化」は上京区役所まちづくり推進課で販売致しております (TEL 441-5040)

花にまつわるエピソード...



季節も添えて演出します。

心のごもった贈り物 Flower Gift

~花束

アレンジメント
グリーンバスケット
スタンド花 etc. ~

フラワーアレンジメント教室 開催中!

本店 京都市上京区烏丸通今出川下ル tel 075-414-8700
fax 075-414-7787
フリーダイヤル 0120-46-8700

西院店 京都市右京区西院東浄和町 1-1 tel&fax 075-323-1387
長岡店 長岡京市 1丁目ゼン通り tel&fax 075-957-0187
大津店 大津市萱野浦ロイヤルオークホテル内 tel&fax 077-545-5587

本店2FにてCafeも営業しております。 <http://www.hanakobo.co.jp>



創立以来七十余年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気にもまれつつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて
参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)

TEL.463-0111(代)

http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/

京料理
京都 祇園
花郷

◎ 昼の膳
八坂(点心懐石) 三、四六五円
白川(ミニ懐石) 四、六二〇円
鴨川(懐石料理) 五、七七五円

◎ 夜の膳
祇園... 一、五五〇円より
(各々税込)

京都・四条花見小路通下ル西側二筋目角
電話〇七五五六一三三二一(代表)



はなさと

いつまでも健康に——。
サン・クロレラ

安全真話

安心のために。伝えたいのは「真実の話」です。



サン・クロレラAは日本製法特許No.3143636、
米国製法特許No.5330913を取得しています。

食品の安全性に対する「神話」が崩れだしている現在…。消費者の皆様が目が厳しくなる中で、私たちはあえて伝えたいことがあります。創業以来、品質にこだわり続けたサン・クロレラは「安全」に対する厳しさを知っているということ。その結晶のひとつが「サン・クロレラA」。すべてを自社責任のもとに開発から製造まで管理し、GMP認定工場*で厳重な検査のもとに生産しています。さらにお届けに関しても自社グループにより直接お客様のお手元へ。製品の正しいご理解と安心してご利用いただくためのアフターフォローも行っています。おかげさまで30年以上にわたってご愛顧いただき、お客様は日本だけでなく世界の国々へと広がっています。もし品質にわずかな不安でもあれば、これほど長い間にわたり愛され続けることはなかったでしょう。安全のために努力を惜しまないという「真実」。これこそがお客様の求める「安全真話」に込められる理由です。

*財団法人健康・栄養食品協会のGMP基準に合格した認定工場。



サン・クロレラAは日健栄協に認定されています。

財団法人日本健康・栄養食品協会の認定マークは、品目別規格基準に基づき、協会の厳正な審査をパスした製品に対してのみその表示が許可されたものです。サン・クロレラAの製造工場はISO9001の認証を取得しています。